

矢巾町水道事業ビジョン

平成27年3月

矢巾町上下水道課

将来も持続可能な水道事業を目指して

我が国には蛇口から出る水を直接飲める水道の文化が厳然とあり、これは世界に誇ることができるものだと思います。そして、この状態を成し遂げている日本の水道技術を維持していくことは非常に重要であると考えています。しかし、人口減少や更新需要の増大などに代表されるように、昨今の水道を取り巻く環境は劇的に変化している過渡期にあり、少しでも油断をすれば近い将来、飲用に堪えない水道が出現してしまう可能性を否定できない状況にあります。

このため、出来る限り長期的な視点に立った水道事業のアセットマネジメントが求められています。一方、これまでの右肩上がりの社会経済的成長を基本とした水道の拡張整備時代から、今後は右肩下がり念頭においた計画を検討すべき時代を迎えています。今後、人口が減少傾向に転じ料金収入が伸び悩む中で、次世代に向けて長期的かつ循環的に水道施設の更新を実行できるかが大きな課題となっています。さらには、住民の意識において、水道のありがたさや存在価値が薄れていく中で、如何にして既存の水道を維持し発展させるかという難題も乗り越えなければなりません。そのため、常に将来における水道の安全と持続を考え続けるとともに、水道事業と住民が一体となって協同する必要があります。

このような状況のもとで、矢巾町において水道施設整備計画を策定し、計画を実行する水道事業ビジョンとしてとりまとめました。本報告書では、中長期的な観点から水道を見据えるとともに、住民参加により現実的な視点を十分に取り入れた実行的な計画を検討しました。特に、水道サポーターが参加するワークショップを繰り返し行って議論を深め、計画としてとりまとめるプロセスは全国的にも類を見ない先進事例になると思います。水道は本来的に住民にとって必要不可欠なものです。その住民の参加によりとりまとめた本報告書は、原点に立ち返り未来の持続可能な水道を造り上げていく真の計画とも言えるでしょう。また、このような考え方を踏まえた事業が現実に進んでいくことが日本の水道を動かす息吹ともなり、全国的に広まるきっかけとなると信じて止みません。検討会に参加いただいた委員の皆様はじめ、ワークショップに参加されたサポーターの皆様、並びに関係各位に心から御礼申し上げます。

今後も矢巾町における安全で安心な次世代の水道を持続可能とする取り組みが継続されることを心から祈念致しております。

矢巾町水道施設整備計画策定検討会

委員長 小 泉 明

【矢巾町水道事業ビジョンの策定プロセス】

- ▶ 策定にあたって、矢巾町水道施設整備計画策定検討会を組織した。
- ▶ 本検討会は、矢巾町の水道事業が今後も安定給水を継続して実施するための水道施設整備について、水道サポーターとのワークショップにおける住民のニーズを反映させた上で整備計画を策定することを目的とした。
- ▶ 水道サポーターによるワークショップと検討会を各 3 回交互に実施することで、住民の意見の反映及び専門的・技術的な観点からの検討を反映させた水道事業ビジョンを策定した。

開催日時	議 題
第 1 回 ワークショップ (H26/10/15)	<p>今後の施設整備のコンセプトを聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道事業の現状と今後の見通し <ul style="list-style-type: none"> * 現状の把握、今後の見通し(水需要、水道施設の老朽化など) ・水道施設の整備方針(コンセプト) <ul style="list-style-type: none"> * 新配水場及び基幹管路の整備、管路の耐震化についてのコンセプト
第 1 回 検討会 (H26/11/25)	<p>整備方針、施設整備の専門的な検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道事業の現状と今後の見通し ・水道施設の整備方針の具体化 ・今後の矢巾町水道事業の施設整備 <ul style="list-style-type: none"> * 将来の水運用パターンの設定 * 新配水場、新井戸の整備案の検討 * 管路整備計画の検討
第 2 回 ワークショップ (H26/2/18)	<p>適正事業量のコンセプトを聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道施設整備と財政収支シミュレーション <ul style="list-style-type: none"> * 施設整備水準と財政見通し(水道料金)の関係を踏まえて、住民が考える適正事業量とは
第 2 回 検討会 (H27/1/14)	<p>望ましい施設整備を具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢巾町水道施設整備計画(素案) <ul style="list-style-type: none"> * 水道施設整備のコンセプト/具体 * 適正事業量の検討 * 財政収支の見通しを踏まえた年次計画案
第 3 回 ワークショップ (H27/2/12)	<p>ワークショップの関わり/素案についての意見聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画策定へのワークショップの関わり ・矢巾町水道施設整備計画(素案) <ul style="list-style-type: none"> * 「矢巾町水道施設整備計画(素案)」についての意見聴取 * 新配水場のコンセプトについての意見徴収
第 3 回 検討会 (H27/3/24)	<p>計画のとりまとめ、提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢巾町水道事業ビジョン(水道施設整備計画)のとりまとめ ・今後の矢巾町水道事業の施設整備のあり方に対する提言

【矢巾町水道施設整備計画策定検討会】

(五十音順、敬称略)

委員長	小 泉 明	首都大学東京 都市環境学部 特任教授
委員	阿 部 江利子	矢巾水道サポーター
	安 藤 宏 道	矢巾水道サポーター
	伊 藤 清 喜	元矢巾町上下水道課長
	長 田 克 也	公益財団法人 水道技術研究センター 管路技術部長
	小田中 多恵子	矢巾水道サポーター
	渋谷 正 夫	公益社団法人 日本水道協会 調査部 資料課長
	そのだ つくし	漫画家

(平成 27 年 3 月時点)

目 次

1. 策定の背景と目的	1
1-1. 策定の背景と目的.....	1
1-2. 計画期間.....	1
1-3. 水道事業ビジョンの位置づけ	2
2. 矢巾町の現状と将来見通し.....	3
2-1. 町の概要.....	3
2-2. 水道事業の概要.....	4
2-3. 人口	5
2-4. 水需要	7
2-5. 施設整備の状況.....	10
2-6. 更新需要の見通し	18
2-7. 導配水状況	23
2-8. 岩手医科大学附属病院の移転	28
2-9. 財政状況.....	31
3. 施設整備に係る基本的な考え方	35
3-1. 整備の視点	35
3-2. 管路整備計画の考え方	37
3-3. 財政の視点	42
4. 今後の施設整備.....	44
4-1. 概要	44
4-2. 短期／中長期的な視点に基づく整備案の抽出.....	45
4-3. 財政収支見通し.....	48
4-4. 年次計画.....	49

1. 策定の背景と目的

1-1. 策定の背景と目的

人口減少社会の到来や更新需要の増加など、水道事業を取り巻く環境が大きく変化している。

平成 25 年 3 月に厚生労働省は新水道ビジョンを策定・公表し、今後も水道の恩恵を全ての国民が継続的に享受できるように、50 年、100 年後の将来を見据えた水道の理想像を明示するとともに、その理想像を具現化するために取り組むべき事項及び方策を提示している。また、各水道事業者には新水道ビジョンの考え方を踏まえた「水道事業ビジョン」の作成が求められている。

矢巾町水道事業においては、矢幅駅前地区の都市再生整備計画の着手や岩手医科大学附属病院の移転などに伴う人口及び水需要の変化や過去集中的に投資した施設が更新期を迎えることによる更新需要の増加、平成 23 年に発生した東日本大震災に代表される地震のリスクや平成 25 年に発生した豪雨災害に代表される気候変動のリスクの増大等、水道事業に影響を与える様々な課題に直面している。

このような環境の変化に対しても矢巾町の水道事業が安定給水を継続的に実施するために、中長期的な視点を踏まえた『矢巾町水道施設整備計画』を策定し、それを実行する『矢巾町水道事業ビジョン』としてとりまとめた。本計画は、矢巾町水道サポーターとのワークショップにおける住民のニーズを反映させるとともに、学識経験者も含めた検討会で協議を行い、実行可能な事業計画としたものである。

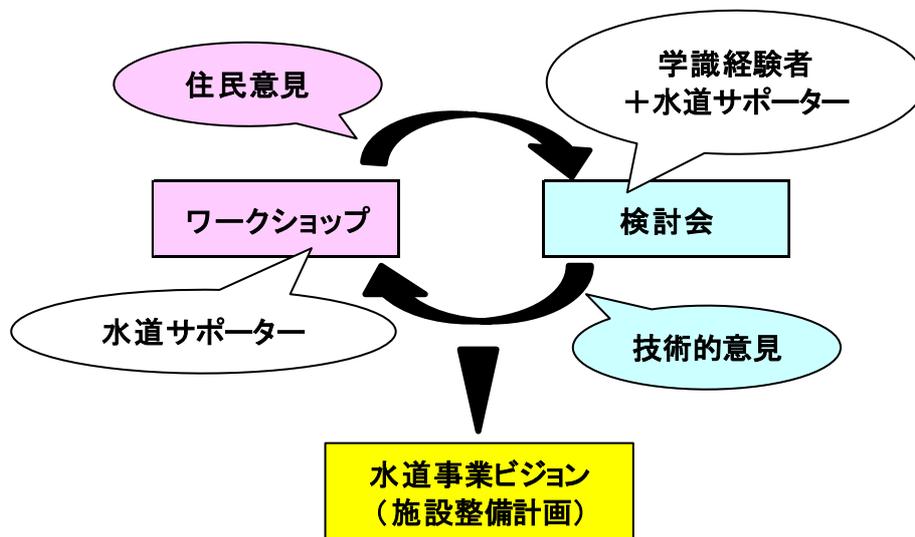


図 1-1. 施設整備計画の策定

1-2. 計画期間

本計画は、町の既存計画と整合を図ると共に実行可能性を重視し、平成 35 年度までを計画期間（具体的な事業計画を策定する期間）とする。

1-3. 水道事業ビジョンの位置づけ

矢巾町水道事業では平成17年度に矢巾町水道ビジョンを策定、平成23年度に改定、基本理念を「大好き！水」として掲げている。本理念は、水道サポーターとのワークショップを3年間実施して定めたものであり、将来に渡って水道を使っている住民が水をゴクゴク飲みながら「大好き！水」と言っていたくことを目標にしている。

本施設整備計画は、矢巾町水道ビジョンで定める5つの政策のうち「安定の実現」の主要計画として位置づけられ、安心・安定・持続・住民参加の観点を網羅した水道事業ビジョンとしてとりまとめている。また、各政策に基づく事業は矢巾町上水道職員と住民が有機的に連携しながら実施することで、基本理念の実現を目指すものである(図1-2参照)。

さらに、下記政策に関連する事業の取組状況として、以下の事業にも取り組んでおり、これらを取りまとめて平成27年度に経営戦略を策定する予定である。

- 事業継続計画(平成26年度策定)
- クラウド技術を活用したアセットマネジメント(継続中)
- プラームクスツェレ手法を取り入れた住民参加型ワークショップ(継続中)

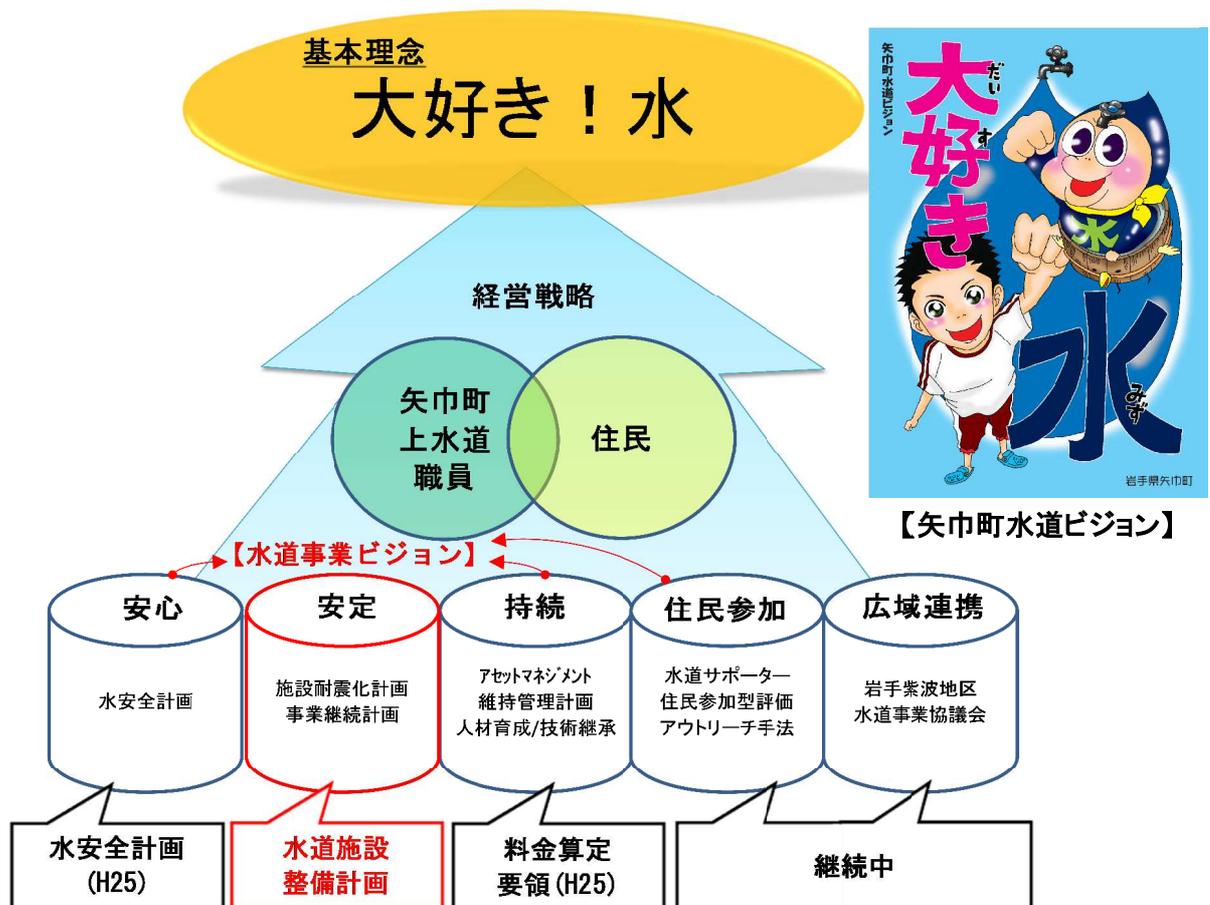


図 1-2. 基本理念と経営戦略／関係者／関係政策(イメージ)